

平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	肉専用種肥育経営	【家族経営】
1 想定地域	都道府県(九州)	
2 経営規模	肥育牛150頭(肥育牛50頭からの規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者:本人、妻、(後継者)、②その他:子供2人、祖父母 総飼養頭数 150頭 ①肥育牛150頭 飼料畑3ha 肥育牛出荷頭数 105頭/年	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	牛房群飼い 分離給与方式 ふん尿混合たい肥化处理	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	5%(粗飼料給与率15%) ①生産 :トウモロコシ(0.6ha)、イタリアンライグラス(1.4ha)、稲わら(1.1ha) ②利用 :サイレージ、乾牧草 3ha (3ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	牛舎1,020㎡(新設680㎡)、堆肥舎421㎡(新設) 飼料タンク2基(2t/基) ホイルローダ1台 パソコンを利用した牛個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	①肥育牛1頭当たり枝肉重量445kg ②肥育期間17.0ヶ月 肥育牛1頭当たり 252千円 (もと畜費を含まない) 肥育牛1頭当たり 21時間	<現状(参考)> <全国平均 440kg> <全国平均 20.5ヶ月> <全国平均 336千円> <全国平均 52時間>
8 労働時間 (1) 労働構成別 (2) 作業体系別	総労働時間:3, 390時間 ①主従事者2,000時間×1、②補助従事者1,200時間×1、 ③雇用190時間(うち常雇用190時間×1、他ヘルパー等) ①飼養管理2,940時間、②自給飼料栽培280時間、③ふん尿処理170時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得 (4) 主たる従事者の所得	7, 390万円 (702千円/頭×105頭) 6, 520万円 (内訳):①飼料費1, 660万円、②もと畜費4, 210万円 ③人件費30万円、④建物農機具費等620万円、 870万円 690万円	
10 その他 (経営の特徴等)	○規模拡大による生産性の向上 ○肥育ステージ、個体能力に応じた肥育管理技術の向上 ○適正な発育段階にある肥育もと牛の導入による肥育期間の短縮 ○低・未利用飼料資源の活用 ○粗飼料給与率、経営内飼料自給率の向上による飼料費の低減、 耕畜連携による国産稲わらの活用	

平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	肉専用種繁殖・肥育一貫経営	【法人(一戸一法人)】
1 想定地域	都道府県(九州)	
2 経営規模	繁殖牛50頭、肥育牛100頭(肥育牛100頭からの繁殖牛50頭の規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者: 本人、妻、(後継者)、②その他: 子供2人、祖父母 総飼養頭数 209頭 ①繁殖牛50頭 ②育成牛59頭、③肥育牛100頭 飼料畑12ha 肥育牛出荷頭数 68頭/年	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	牛房群飼い 分離給与方式 ふん尿混合たい肥化处理	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	20%(粗飼料給与率25%) ①生産 : トウモロコシ(2.3ha)、イタリアンライグラス(5.4ha)、稲わら(4.6ha) 飼料調製はコントラクターの利用 ②利用 : サイレージ、乾牧草 12ha (12ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	牛舎884㎡(新設650㎡)、堆肥舎532㎡(新設) 飼料タンク4基(2t/基)、スタンション15本 トラクター1台、ホイロローダ1台 パソコンを利用した牛個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	<現状(参考)> ①肥育牛1頭当たり枝肉重量445kg <全国平均 440kg> ②肥育期間17.0ヶ月 <全国平均 20.5ヶ月> 肥育牛1頭当たり 593千円 <全国平均 768千円> 肥育牛1頭当たり 59時間 <全国平均 158時間>	
8 労働時間 (1) 労働構成別 (2) 作業体系別	総労働時間: 3,760時間 ①主従事者2,000時間×1、②補助従事者1,200時間×1、 ③雇用560時間(うち常雇用560時間×1、他ヘルパー等) ①飼養管理1,960時間、②ふん尿処理210時間、③繁殖部門1,590時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得 (4) 主たる従事者の所得	4,630万円(去勢702千円/頭×51頭、雌616千円/頭×17頭、) 3,850万円 (内訳): ①飼料費1,760万円、②もと畜費990万円 ③人件費90万円、④建物農機具費等1,010万円、 780万円 590万円	
10 その他 (経営の特徴等)	○規模拡大による生産性の向上 ○肥育ステージ、個体能力に応じた肥育管理技術の向上 ○適正な発育段階にある肥育もと牛の導入による肥育期間の短縮 ○繁殖部門の導入による肥育もと牛の安定的確保と効率的な肥育牛生産 ○低・未利用飼料資源の活用 ○粗飼料給与率、経営内飼料自給率の向上による飼料費の低減、 コントラクター利用による自給飼料費の低減、耕畜連携による国産稲わらの活用	

平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	乳用種・交雑種育成経営	【法人(一戸一法人)】
1 想定地域	北海道	
2 経営規模	育成牛500頭(乳用種350頭、交雑種150頭)(育成牛300頭からの規模拡大)	
3 経営の概況	(1) 家族構成 ①従事者:本人、妻、(後継者)、②その他:子供2人、祖父母 (2) 飼養頭数 総飼養頭数 500頭 ①育成牛500頭(乳用種350頭、交雑種150頭) (3) 耕地面積 飼料畑32ha (4) 生産量 育成牛出荷頭数 1,034頭/年(乳用種759頭、交雑種275頭)	
4 技術体系	(1) 飼養管理方式 牛房群飼い (2) 飼料給与方式 TMR給与方式 (3) 排せつ物処理 ふん尿混合たい肥化处理	
5 飼料生産	(1) 経営内飼料自給率 20%(粗飼料給与率25%) (2) 生産・利用体系 ①生産 :混播牧草(22.5ha)、麦稈(9.9ha) ②利用 :サイレージ、乾牧草 (3) 作付実面積 32ha (延べ面積) (32ha)	
6 施設・機械装備	(1) 建物 牛舎1,500㎡、堆肥舎789㎡(新設) 飼料タンク4基(2t/基) (2) 機械 トラクター1台、ホイルローダ1台、自動給餌機 (3) その他 パソコンを利用した牛個体・経営管理	
7 生産性指標	(1) 生産技術 ①育成牛1頭当たり乳用種:生体重270kg <現状(参考)> 交雑種:生体重250kg <全国平均 270kg> <全国平均 260kg> ②育成期間 乳用種5.4ヶ月 <全国平均 6.2ヶ月> 交雑種6.4ヶ月 <全国平均 7.4ヶ月> (2) 生産コスト 育成牛1頭当たり 乳用種57千円 <全国平均 76千円> 交雑種54千円 <全国平均 83千円> (3) 労働生産性 育成牛1頭当たり 乳用種8.6時間 <全国平均 8.7時間> 交雑種8.6時間 <全国平均 9.2時間>	
8 労働時間	総労働時間:6,080時間 (1) 労働構成別 ①主従事者2,000時間×1、②補助従事者1,200時間×1、 ③雇用2,880時間(うち常雇用2,880時間×1、他ヘルパー等) (2) 作業体系別 ①飼養管理3,980時間、②自給飼料栽培1,790時間、③ふん尿処理310時間	
9 経営指標	(1) 粗収入(販売額) 11,210万円(乳用種73千円/頭×759頭、交雑種205千円/頭×275頭) (2) 経営費 10,410万円 (内訳):①飼料費2,800万円、②もと畜費4,790万円 ③人件費700万円、④建物農機具費等2,120万円、 (3) 所得 800万円 (4) 主たる従事者の所得 620万円	
10 その他 (経営の特徴等)	○規模拡大による生産性の向上 ○育成ステージ、個体能力に応じた育成管理技術の向上 ○低・未利用飼料資源の活用 ○粗飼料給与率、経営内飼料自給率の向上による飼料費の低減、 耕畜連携による国産稲わらの活用	

平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	乳用種・交雑種肥育経営	【家族経営】
1 想定地域	都道府県(関東)	
2 経営規模	肥育牛250頭(乳用種150頭、交雑種100頭)(肥育牛160頭からの規模拡大)	
3 経営の概況	(1) 家族構成 ①従事者:本人、妻、(後継者)、②その他:子供2人、祖父母 (2) 飼養頭数 総飼養頭数 250頭 ①肥育牛250頭(乳用種150頭、交雑種100頭) (3) 耕地面積 飼料畑9ha (4) 生産量 肥育牛出荷頭数 201頭/年(乳用種127頭、交雑種74頭)	
4 技術体系	(1) 飼養管理方式 牛房群飼い (2) 飼料給与方式 TMR給与方式 (3) 排せつ物処理 ふん尿混合たい肥化处理	
5 飼料生産	(1) 経営内飼料自給率 5%(粗飼料給与率10%) (2) 生産・利用体系 ①生産 :混播牧草(6.7ha)、稲わら(2.2ha) ②利用 :サイレージ、乾牧草 (3) 作付実面積 (延べ面積) 9ha (9ha)	
6 施設・機械装備	(1) 建物 牛舎1,700㎡、堆肥舎702㎡(新設) 飼料タンク3基(3t/基) (2) 機械 トラクター1台、ホイルローダ1台、自動給餌機 (3) その他 パソコンを利用した牛個体・経営管理	
7 生産性指標	<現状(参考)> (1) 生産技術 ①肥育牛1頭当たり乳用種:枝肉体重460kg <全国平均 435kg> 交雑種:枝肉体重460kg <全国平均 440kg> ②肥育期間 乳用種14ヶ月 <全国平均 15.9ヶ月> 交雑種16ヶ月 <全国平均 19.4ヶ月> (2) 生産コスト 肥育牛1頭当たり 乳用種233千円 <全国平均 255千円> 交雑種235千円 <全国平均 294千円> (3) 労働生産性 肥育牛1頭当たり 乳用種9.7時間 <全国平均 18.3時間> 交雑種9.7時間 <全国平均 24.6時間>	
8 労働時間	総労働時間:2,920時間 (1) 労働構成別 ①主従事者2,000時間×1、②補助従事者920時間×1、 ③雇用なし (2) 作業体系別 ①飼養管理2,140時間、②自給飼料栽培500時間、③ふん尿処理280時間	
9 経営指標	(1) 粗収入(販売額) 7,550万円(乳用種317千円/頭×127頭、交雑種475千円/頭×74頭) (2) 経営費 6,530万円 (内訳):①飼料費3,260万円、②もと畜費2,290万円 ③建物農機具費等980万円、 (3) 所得 1,020万円 (4) 主たる従事者の所得 870万円	
10 その他 (経営の特徴等)	○規模拡大による生産性の向上 ○肥育ステージ、個体能力に応じた肥育管理技術の向上 ○低・未利用飼料資源の活用 ○粗飼料給与率、経営内飼料自給率の向上による飼料費の低減、 耕畜連携による国産稲わらの活用	

平成27年度に経営指標において想定している畜産経営の詳細について

経営類型	乳用種育成・肥育一貫経営	【法人(一戸一法人)】
1 想定地域	北海道	
2 経営規模	育成牛160頭、肥育牛400頭(肥育牛400頭からの育成牛160頭の規模拡大)	
3 経営の概況 (1) 家族構成 (2) 飼養頭数 (3) 耕地面積 (4) 生産量	①従事者: 本人、妻、(後継者)、②その他: 子供2人、祖父母 総飼養頭数 560頭 ①育成牛160頭 ②肥育牛400頭 飼料畑20ha 肥育牛出荷頭数 338頭/年	
4 技術体系 (1) 飼養管理方式 (2) 飼料給与方式 (3) 排せつ物処理	牛房群飼い TMR給与方式 ふん尿混合たい肥化処理	
5 飼料生産 (1) 経営内飼料自給率 (2) 生産・利用体系 (3) 作付実面積 (延べ面積)	5%(粗飼料給与率10%) ①生産 : 混播牧草(13.8ha)、麦稈(6.1ha) ②利用 : サイレージ、乾牧草 20ha (20ha)	
6 施設・機械装備 (1) 建物 (2) 機械 (3) その他	牛舎2,000㎡、育成舎482㎡(新設)、堆肥舎1,376㎡(新設) 飼料タンク4基(2t/基) トラクター1台、ホイルローダ1台、自動給餌機 パソコンを利用した牛個体・経営管理	
7 生産性指標 (1) 生産技術 (2) 生産コスト (3) 労働生産性	<現状(参考)> ①肥育牛1頭当たり乳用種: 枝肉体重460kg <全国平均 435kg> ②肥育期間 乳用種14ヶ月 <全国平均 15.9ヶ月> 肥育牛1頭当たり 乳用種266千円 <全国平均 331千円> 肥育牛1頭当たり 乳用種15.4時間 <全国平均 27時間>	
8 労働時間 (1) 労働構成別 (2) 作業体系別	総労働時間: 4, 570時間 ①主従事者2,000時間×1、②補助従事者1,200時間×1、 ③雇用1,370時間(うち常雇用1,370時間×1、他ヘルパー等) ①飼養管理1,930時間、②自給飼料栽培620時間、③ふん尿処理550時間、 ④育成部門1,470時間	
9 経営指標 (1) 粗収入(販売額) (2) 経営費 (3) 所得 (4) 主たる従事者の所得	10, 770万円 (乳用種317千円/頭×338頭) 10, 010万円 (内訳): ①飼料費6, 380万円、②もと畜費1, 140万円 ③人件費210万円、④建物農機具費等2, 280万円、 760万円 580万円	
10 その他 (経営の特徴等)	○規模拡大による生産性の向上 ○育成・肥育ステージ、個体能力に応じた育成・肥育管理技術の向上 ○肥育経営への育成部門の導入による効率的な肥育生産 ○低・未利用飼料資源の活用 ○粗飼料給与率、経営内飼料自給率の向上による飼料費の低減、 耕畜連携による国産稲わらの活用	